

茨城県立土浦第一高等学校 2019 年度海外フィールドワーク

マレーシア・シンガポールコース 報告

●概要

- ・日程 2019年8月13日～21日 7泊9日
- ・訪問地 マレーシアのクアラルンプール及びジョホールバル、シンガポール市街等
- ・参加者 2学年生徒7名、引率教員2名
- ・内容 海外でフィールドワークや国際交流をする。
- ・目的 幅広い視野と国際意識の涵養
- ・方法 旅行会社によるアレンジは最小限にとどめ、引率教員の事前交渉や人脈を使って行程を組む。現地では可能な限り生徒の主体的行動にまかせ、自主研修の時間を多く取る。

●行程表

日	月日	地名	スケジュール
1	8/13 (火)	成田発 クアラルンプール着	空路、クアラルンプールへ 着後、ホテルへ ＜クアラルンプール泊＞
2	8/14 (水)	クアラルンプール	マレーシア工科大学マレーシア日本国際工学院にてワークショップ 市内にてインタビュー等調査 ＜クアラルンプール泊＞
3	8/15 (木)	クアラルンプール	市内研修またはプレゼン準備 マレーシア工科大学にてプレゼン、モスク見学、フェアウェルパーティー ＜クアラルンプール泊＞
4	8/16 (金)	ジョホールバル	専用車でプライ村へ移動、ホストファミリーと合流 ＜ホームステイ＞
5	8/17 (土)	ジョホールバル	ホストファミリーと過ごす ＜ホームステイ＞
6	8/18 (日)	ジョホールバル シンガポール	シンガポール入国 マリーナバラージ、マーライオン公園、チャイナタウン、ガーデンバイザベイ、ラオパサ・ホーカーなど ＜シンガポール泊＞
7	8/19 (月)	シンガポール	三菱重工アジアパシフィック、リャンコート、シティスクエアモール、リンガフ ランカ起業家講演、インド人街、クラークキー自由研修、マリーナベイ・リバー クルーズ、スペクトラショーなど ＜シンガポール泊＞
8	8/20 (火)	シンガポール発	Tanglin Secondary School 訪問・交流 国立博物館スタディツアー、空港へ ＜機中泊＞
9	8/21 (水)	羽田着	入国、通関後、解散

●8月13日(火) 成田→クアラルンプール

生徒7名, 引率2名で, 保護者, 明賀靖子副校長, 植田恵津子教諭の見送りを受け, 出発する。



[機内では訪問地の下調べや英語の勉強をして過ごす]

●8月14日(水) クアラルンプールでのワークショップ及び調査

マレーシア工科大学 (UTM)・マレーシア日本国際工学院 (MJIT) で, 現地の岩本浩二教授, 石崎浩之教授, アブドラ博士, 現地学生を含めたワークショップを実施する。講義のあと, 生徒はアテンド学生と1対1になり, 研究テーマの説明や調査計画の立案をする。午後は各グループが調査計画に基づいて, クアラルンプール市街や大学構内で街頭調査を実施する。

市内調査の
生徒感想

- ・アテンドの大学生が助けてくれたので, 浅草で実施したときよりやりやすかった。
- ・アテンドさんがいなかったら, 人に声をかけられなかったり, パニックになっていたと思う。
- ・思ったよりも断られることが少なく, マレーシア人の優しさを感じた。
- ・UTM のカウンセラーや病院の精神科医のお二人とも, 親身に話を聞いてくださってうれしかった。アジアと西洋の子どもたちの差異や, それを越えるための方法など, 突っ込んだことまで聞けて, とてもよいデータになった。
- ・回答率が8割もあり, マレーシア人の優しさを強く感じた。
- ・マレーシアの英語を聞き取るのに苦労した。
- ・つたない英語でも理解しようとしてくれたのがうれしかった。



[アテンド学生と打ち合わせ]



[調査計画を発表する]



[発表にスケッチブックを利用]



[調査計画を相談して練る]



[市街地でインタビュー]



[スケッチブックを使う工夫]



[大学内の研究室でも調査]



[現地の学生さんにもインタビュー]



[みな親切に答えてくれる]



[カウンセラーへのインタビュー]



[受け入れていただいた MJIT]

●8月15日(木) クアラルンプールでの調査及び大学でのプレゼンテーション

午前はグループにより、市内で補充調査や大学でプレゼンの準備を進める。午後はマレーシア工科大学(UTM)でプレゼンテーションを実施する。質疑応答を含め一人10分で発表をこなす。大学構内のモスクで礼拝体験、市内レストランでのフェアウェルパーティー、夜の市内散策をする。

<p>UTMプレゼンの生徒感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アテンド学生さんのアドバイスで、図を追加したりして良いプレゼンになった。 ・書いた文にこだわるのではなく、短い言葉で簡潔に伝えるように、プレゼン能力を高めたいと思った。
---------------------	--

- ・質疑応答の質問の対応をどうしたらいいのか心配だったけど、実際には質問を聞き取ることができて、よかった。
- ・質疑応答では、予想外のことを聞かれたが、その場で対応することができてよかった。
- ・プレゼンでは聞き手の目を見るように心がけたら、会話をしているように感じ、うまくいった。
- ・準備は大変だったけど、終わってみてとても達成感がある。時間配分もうまくできてよかった。



[アテンド学生とプレゼン準備]



[プレゼンは1人 10分英語で]



[質疑応答も活発]



[現地学生と一緒にランチ]



[UTM 構内のモスクへ]



[礼拝体験をさせてもらう]



[案内役の方から記念品を頂く]



[修了証と感謝状を手に]



[市内で歓送会]



[一高の校歌を披露する]



[夜の市街散策]

●8月16日(金) クアラルンプールから移動及びプライ村でのホームステイ

専用車でジョホールバル近郊のプライ村へ移動する。歓迎会ののち、7人が3家庭に入る。現地での伝統的な遊びや森の中の散策などをして過ごす。

●8月17日(土) 引き続きプライ村でのホームステイ

ホームステイの生徒感想	<ul style="list-style-type: none">・村では英語が通じなくて驚いた。知っている数少ないマレー語のあいさつだけでもなんとか乗り切れるものだと感じた。・マレーシアの農村文化を知ることができてよかった。・村の人や子どもたちなどいろいろな人と話すのが楽しかった。・最初は文化や環境の違いに戸惑ったが、ホストファミリーが簡単なマレー語を教えてくれて、次第に慣れた。5歳の子が名を呼んでくれて、家になじめている気がしてうれしかった。・ホストファミリーの対応の良さや心の温かさを身にしみて感じた。マレーシアでのホームステイの活動について、自分でも将来の仕事の一つに取り込めていきたいとも考えられた。・ホストファミリーが、日本人は礼儀正しく良い人たちだと言っていてうれしかった。・ホームステイを受け入れる観光形態のメリットとともに、デメリットにも思い至ることがあった。・言葉がまったく通じない子どもと一緒に遊ぶというのは希有な体験だった。・お互いに言いたいことが伝わらず、焦ったこともあったが、この家にホームステイをしてよかった。・英語は様々な場面で使えるが、世界では決して万能ではないことがわかった。英語でコミュニケーションがとれた時に安心できたことは、貴重な経験だった。
-------------	--



[村を挙げての歓迎会]



[村長から記念品を頂く]



[手づかみで料理を食べる]



[温かい歓迎を受ける]



[手作り体験]



[なついてくれた子どももお別れ]

●8月18日(日) プライ村→シンガポール

シンガポールでは、マリーナバレーでシンガポールの抱える水資源問題について学ぶ。マーライオン、ガーデンズバイザベイでは、観光施設の設立経緯や環境問題解決に対する意義を学ぶ。夜は土浦一高出身で、現地で活躍する内田屋聡氏と佐藤淳子氏を迎えて、座談会をおこなう。

<p>シンガポール 市内研修の 生徒感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・何もかもが計算されつくして、渋滞をコントロールしたり、水を貯めたりなど、問題を自ら解決できているのが素晴らしいと思った。 ・シンガポールの名前の由来が「ライオンの町」と知り、成り立ちに興味を持った。 ・物価が、日本と比べて1.3倍～1.5倍と、高いことを知った。 ・循環型社会のあり方としても、経済的な面でも、まさに良いところだけを集めたような国。今後の行く末や抱える問題点を知りたいと思った。 ・富裕層はあらゆる場面で優位な立場にいることを知った。 ・多くの外国人が生活していることに気づいた。 ・交通の便の良さ、治安の良さを感じた。 ・マーライオンの像は観光客のために40年ほど前に作られた。植物園の樹木は、海外から樹木ごともってきて、埋め立て地に植えた。
----------------------------------	--



[移動の車内ではいつも学習会]



[シンガポールの水問題を考える]



[マリーナバレーの貯水池見学]



[緑化した屋上は市民憩いの場]



[マーライオン公園]



[ガーデンズバイザベイ自由研修]



←[夜の座談会]

Standard Chartered Bank で石油トレーダーをする内田屋聡氏と、現地駐在中に観光ガイドなどをする佐藤淳子氏を迎えて。ともに土浦一高出身で、世界を舞台に活躍する先輩の姿と言葉に、大いに刺激を受ける。

●8月19日(月) シンガポール市内で企業訪問

三菱重工アジアパシフィック(三菱重工 AP)では、茨城県出身の武田宙氏のアレンジのもと、岡田幸一郎氏、福永基貴氏、Wei Cheng氏より会社の業務説明、駐在員としての生活、シンガポールの国内事情などについて講話と質疑応答をおこなう。グローバル企業の一員として海外に駐在して働くことに興味をもつ。リングフランカホールディングスでは、代表の藤山英昭氏から、M&Aで社会貢献する事業内容、起業することの意義、海外で仕事することの実体験についてお話しをいただき、質疑応答をおこなう。起業する道について実感をもつとともに、やりたいことは世界中のどこでもできることを学ぶ。夜はマリーナベイサンズ周辺で観光の実態を研修する。

<p>三菱重エ アジアパシ フィックの生徒感 想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんど理系の人かと思っていましたが、文系出身で働いている人もいて驚いた。 ・シンガポールを拠点にして東南アジア全体にビジネスを広げていて、グローバルな企業と知り、将来、こういった大企業で大きなプロジェクトを動かしてみたいと思った。 ・国家を動かすような大企業の話を聞け、世界を舞台に働きたいという意欲がわいた。 ・自分から行動し、話す勇気や、あきらめない気持ちが大切と学んだ。 ・今までは視野が狭く、新しいことに挑戦する勇気がありませんでしたが、今回たくさんの方からいろいろな話を聞いて、視野を広く持ち、いろいろなことに挑戦しようと思いました。
<p>リングフラン カの生徒感 想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リングフランカが経営に関わっているうどん店「たも屋」では、定期的に本場の職人が来て指導することで、本物の味を楽しめるということに感銘を受けた。 ・儲けることだけがビジネスなのではなく、社会のために自分に何ができるかを考えることが大切と思った。 ・日本にとどまらない将来や、起業することも一つの選択肢になると思った。 ・シンガポールで会社を設立することの難しさとおもしろさを、共に感じた。 ・日本を含め世界にはたくさんの企業や職種があることを学ぶとともに、自分で会社を立ち上げる勇気について、考えることができた。 ・自らの着眼から世界を動かすような起業の実態を知り、貴重な経験になった。



[市街流入車両への課金システム]



[三菱重工 AP 武田宙氏より講話]



[Wei Cheng氏などからもお話し]



[受け入れありがとうございました]



[リングフランカ藤山英昭氏の講話]



[経営する店舗で戦略などを学ぶ]



[藤山様ありがとうございました]



[地下鉄で移動]



[佐藤淳子氏の案内でインド人街]



[現地の美雪氏にも案内いただく]



[リバークルーズでリフレッシュ]



[高層ビルの立ち並ぶベイエリア]

●8月20日(火) シンガポール市内で学校訪問及び市内研修, シンガポール出国

Tanglin Secondary School を訪問する。同年代の生徒が対応し, 双方の学校紹介, フリートーク, 授業参加, ランチミーティングなどをおこなう。日本の学校との類似点や相違点, 生徒の気質の違いなどを感じるとともに, 交流を深める中でお互いに友人関係へと発展する。

<p>Tanglin Secondary School の生 徒感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の高校生と交流できたことは, 想像以上に有意義だった。生徒が積極的に生活していたのが印象的だった。 ・各生徒の背景が多国籍のため, 違うことが当たり前で, 何でも受け入れる優しさを感じた。 ・ハンドボールの授業では, 全員にパスしようとする雰囲気があり, 男女も仲が良かった。 ・生徒とのコミュニケーションを通じて, 話したいことが伝わる喜びを感じた。 ・英語が意外と伝わって話しがはずみ, 新しい友だちができてうれしかった。 ・初めて会った人に, 自分から積極的に話しかけることは大切だと学んだ。 ・すべての人を明るく賞賛する雰囲気があり, そのようなスタイルを好きになった。 ・それぞれの自主性がとても感じられて, 多文化の国の学校の良さを感じた。 ・授業では, 指名されなくても積極的に発言している人がいたのが印象的だった。
<p>シンガポール 国立博物館 の生徒感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本統治時代の歴史などを興味深く学んだ。これからのシンガポールと日本・世界との関係について考える, よいきっかけになった。 ・異なるバックグラウンドをもつ人たちが集まる国だからこそ, 法律を厳しくしたり, 環境を整えたりすることで, 経済成長をとげられたのだと思った。 ・シンガポールと周りの国の関係についても知ることができた。 ・日本による虐殺を許すけど忘れないという方針があったことを知り, 深く印象に残った。

- ・日本占領時のことなど興味深く学んだ。ガイドの美雪さんの説明がとても分かりやすく、おもしろかった。
- ・日本統治の時代が大きく描かれていて、日本人としてのシンガポールに対する考え方を大きく変えさせるものになった。
- ・淳子さんの分かりやすい説明で、シンガポールが、知恵を使った数々の政策により僅か 50 年で世界のトップ国にまで上り詰めたと聞いて、とても感心した。



[Tanglin 校で歓迎を受ける]



[相互に学校紹介をする]



[体育の授業で一緒に汗を流す]



[活発で自由な授業風景に圧倒]



[同世代同士、すぐに打ち解ける]



[連絡先を交換し、交流を約束]



← [シンガポール国立博物館] →
土浦一高出身で現地のボランティアガイドとして活躍する佐藤淳子氏と、その友人の美雪氏が案内をしてくれる。お二人には、インド人街など市内の案内もしていただき、特に佐藤氏には現地交通の手配やアドバイスをいただくなど、シンガポール滞在を通して大変お世話になった。



●8月21日(水) 日本帰国

羽田空港で片岡達郎教頭、豊島卓教諭、金井大貴教諭の出迎えを受け、解散式ののち、現地解散する。

全体を通して の生徒感想

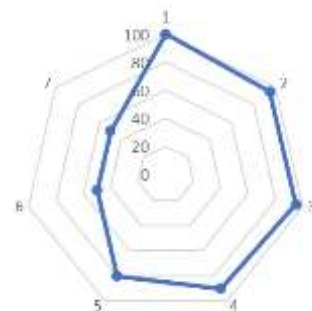
- ・海外の人と英語で話して仲良くなることの楽しさを知った。
- ・自分の探究テーマの調査ばかりではなく、その地域の文化や特色を学ぶこともでき、貴重な経験だった。今後の生活に生かしたい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・英語で話すことが怖いと思っていたが、克服できた。積極性を身につけることができた。 ・少人数だからこそ学べること、楽しめることがたくさんあった。自分の将来を考える有意義な時間となり、全ての体験が私の財産になった。 ・何事にも勇気をもって取り組み、とりあえず発言してみる大切だと学んだ。以前より積極的に話せるようになった。 ・様々な人との交流を通して、自分の将来について考えられた。これからの日本や世界の中で、自分の存在意義や、自分がどういった存在にならなければいけないかについて危機感をもち、高校生活へのモチベーションが高まった。 ・マレーシアでは、海外からみた日本のイメージを知ることができた。シンガポールでは、グローバル化が進む世界の、将来の理想的なあり方を見た気がした。 ・日本との共通点や相違点を学び、日本という国にますます興味が持てるようになった。 ・これからのグローバル社会では、日本語と英語を使えるだけでいいのか、考えさせられた。 ・英語が使えないと話しにならないが、英語は万能ではなく、もう1か国語必要と思った。 ・海外の大学で学ぶことに、ものすごく可能性を感じた。 ・英語でのコミュニケーションが、自分で思っていたよりできて、自信になった。 ・自分の五感で世界を感じることができ、世界で活躍することを夢見るようになった。 ・今回の研修は、引率の先生方などの交渉やコネを使って実現できた。自分も多くの人とコネを作りたいと強く思った。また、行動の自由度がとても高く、自主性や行動力を養うことになったと思う。今後も続けていってほしい。
--	--

●生徒が参加に当たって目標としたこと

- ・視野を広げる。
- ・1秒1秒を大切に、積極的に何でもやってみる。
- ・チャレンジ精神を忘れずに、何事にも積極的にトライする。
- ・できるだけたくさんの人に質問し、やり残しをしない。
- ・質問や発言を積極的にし、実りあるものとする。
- ・英語を使うことを怖がらずに積極的にいろいろな人に話しかける。
- ・コミュニケーション力を向上させるとともに、自分の研究計画を達成する。

目標の達成度 (%)



●引率者コメント

7人と少人数だったため、生徒の参加意識が高まった。質疑応答では、全員が発言をしたり、大学や高校との交流では現地の方と1対1で話す時間が多く取れたりした。体調不良で離脱する生徒もなく、予定していた行程以上のことをこなすことができた。生徒の意見としても、外国の人と触れて視野が広がったことや、海外で活躍することへの意識が深まったことが述べられており、当初目的とした「幅広い視野と国際意識の涵養」がほぼ達成できたと考える。生徒のプログラムに対する満足度は、平均で94%に達した。

現地では土浦一高の卒業生をはじめ、そのご友人、お知り合いの方にご協力いただいたおかげで、一層充実した研修となりました。ボランティアでお時間を割いてご対応いただき、誠にありがとうございました。